

それぞれ個性豊かなおひなさま (三月二日)



くさばな しんぶん

2019年2月号

197-0802
東京都あきる野市草花3060
電話 042-558-3018



理事長・園長 山城清邦

《子ども会》

三月二日(土)の「子ども会」には大勢ご来園いただき、ありがとうございました。お子さま方の、あるいはお孫さん方の、いろいろな演技をご覧いただき、ご家庭では見られないお子さまの場面をご覧になり、きつと感慨深いものがあったことと思います。予期せぬハプニングもありましたが、それは幼児にはつきものとお考えいただきたいところです。考えてみれば、大人でさえ、多くの人々を前にして挨拶したり、歌ったり、踊ったりするのは緊張するものです。手が震えたり、膝ががくがくして、声が上がったりするものです。幼児も同じこと。ふだんの練習風景とは目の前の光景ががらりと変わっているうえ、おうちの方がたくさんお見えですから、きつと緊張しているはず。そこで、当日もお話ししたのですが、「子ども会」という名称の件について、あらためて説明します。

通常は、「遊戯会」とか「発表会」とか「生活発表会」という名前が使われていますが、当幼稚園はおそらく開園以来、この「子ども会」という名前を使っています。

これは、基本的には、子どもたちどうしが、お互いの成長を確認し喜びたいことなんでしょう。当日もそうでしたが、練習の時も、年長は年少・年中組の演技を、年少は年中・年長の演技を、年中は年少・年長の演技を、食い入るように見つめています。五感のすべてを動員して目の前で展開されている他の園児の様子を見つめています。ほんとうに、真剣な眼差しです。これはおそろしく、こころでは説明できないワールドなのだと思います。したがって、当日も、次の出番で控室に入る必要がない限り、最前列で見ようとしています。

なお、当日、駐車場その他の件でご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。最後に、保護者会コーラスの準備から練習の設定その他ご協力をしてくださった保護者会役員のみなさまに御礼申し上げます。私の不手際もあつたことを、この場をお借りしてお詫言申し上げます。

《歌「ね」》
子ども会にて年長組が歌った歌「ね」の歌詞は楽しい歌でした。その歌詞が泣かせます。一部ご紹介します。

♪いろいろなうんせんがかさなって
ここにこうして
あなたと一緒しににいるのが
ただとてもうれし

ね おじいさんになつても
ね おばあさんになつても
すつとすつといっしょに
あつたかく
つきあつていたいね

本音がそうですね。みんな健康で年齢を重ね、子どもたちの思い出話に花を咲かせる、そんな光景が想像され、楽しくなります。実は私もそんなことができたいです。保育園や小学校時代の友だちで、この地元に住んでいる友だちと、年に一回か二回、男女を問わず集まって食事したりしています。「竹馬の友」ということばがありますが、幼稚園の子どもたちも、将来そんな日が来ると良いですね。

《幼稚園の課程》
子ども会当日のご挨拶でも申し上げましたが、幼稚園の毎日活動の中には、いろいろな要素が含まれています。幼稚園の「教育」は、文科省が定める「幼稚園教育要領」によっています。小学校以上となると「学習指導要領」が定められているのと同様です。保育園には「保育指針」があり、全国的な標準が示されています。幼稚園の生活は、楽しくなければ意味がありませんが、その楽しさの根底には、こうした基準があるのです。

ところで、「幼稚園教育要領」には通称五領域が示されています。五領域とは、

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

以上です。運動会や子ども会でご覧いただいた出しものは、みなこれらを土台に置いています。担任はこれらがバランス良く保たれるように考えながら、日々の保育を行っています。

《涅槃会(ねはん会)》
二月十五日は仏教行事でいう「涅槃会」です。これはお釈迦さまが亡くなったことを悲しむ催しです。お釈迦さまは八〇年にわたる生涯の後半は、定住することなく、説法の旅を続けました。今は「カウセリング」という心理学の用語がありますが、おそらく相手の心の状態を読み、何が必要かを考えて助言をし、生きる意欲を与えたのだと思います。これを「対機説法(たいきせつほう)」と呼びます。

ご自分の死期を悟ったお釈迦さまがそのことを告げると、驚き悲しみに襲われた人々が集まってその別れを惜しむ姿が、大きな絵に描かれています。そこには動物たちも。寺には、おそらく江戸時代に描かれた大きな絵と、子ども向けに描かれた絵と、両方あり、園児には子ども向けの絵を飾って、毎年お話ししています。(三月五日記)



日々の保育から

主任教諭 影山 幸江

先日の子ども会には、たくさんの保護者の皆様にご来園いただき、ありがとうございました。お子さまたちの頑張りはいかがだったでしょうか。「子ども会」は、お子さまたちの1年間の成長がギュッと詰まった、いわば、1年間の総まとめの会として行われています。4月の入園、進級式から今日までの幼稚園での経験を、各学年でそれぞれの形にして発表しました。当日は、予想外のハプニングや、ご家庭では見ないお子さまの姿もあったと思いますが、この日のために毎日少しずつ練習に取り組んできたお子さまたちでした。今月は、そんなお子さまたちの子ども会に向けての取り組みをお知らせいたします。

《かわくみ》

どちらのクラスとも、これまでの遊びで経験してきたことを踏まえての内容でしたので、「子ども会」と言うことをあまり意識することなく練習に参加していました。人前で大きな声で台詞を言うことは経験がないため、難しかったようですが、友だちと一緒にいることで安心感を持ち、少しずつ声が出てくるようになってきました。歌や楽器遊びは、どちらのクラスも新しい曲、歌に挑戦しました。歌の歌詞を覚えることが大変でしたが、朝の時間や帰りの会の時に歌うなどし、少しずつ覚えていきました。

《もりぐみ》

今年のもりぐみさんは、表現や、リズム遊びに興味があるお子さまが揃っていると感じていましたが、リズム劇「プレーメンの音楽隊」の練習も、とにかく楽しく取り組んでいました。それぞれの役と担任と一緒に動きを考えたり、友だちの表現を認め合ったりしていく中で、リズム劇の楽しさも共有していました。楽器遊びは、初めの方は、ピアノの曲をよく聞き、友だちと合わせて鳴らすことも、動きを合わせることも難しく苦戦していましたが、毎日少しずつ練習を積み重ねることで、皆で合わせてできるようになりました。また、出番を待つ間、友だちの演奏の様子を見ることで、他の楽器の動きも覚えてしまったお子さまも多かったです。

《やまぐみ》

今年度から1クラスとなり、指揮者のいない合奏となりました。初めは、電子ピアノを用意し、担任が目の前で弾きながら指導。ある程度形が出来上がってきたからは、ステージ上のピアノを使った練習に切り替え、担任の弾くピアノの音だけを頼りに頑張っていました。曲の最後の、楽器とピアノの音が同時に入るところがやはり難しかったようで、何度も練習をしていました。言語劇は、台詞を覚えることが難しいお子さまも多く、何度も繰り返して練習していましたが、練習に対して毎回楽しんで取り組む様子が見られました。発表は、「幼稚園の思い出」と、「頑張ったこと」というテーマでしたが、今年1年を振り返った時に、真っ先に思い出したことを言葉にし担任に伝えていました。言葉とともに見せた張り絵は、毎日少しずつ作り上げたものです。絵に描くこととは違い、細かなところまで画用紙を切って表現することは、集中力も必要となりますが、時には担任にアドバイスをもらいながら最後まで一人で作り上げていました。

このように各学年ともに本番に向けて毎日の練習を頑張ってきました。保護者の皆様は当日の様子しかご覧いただけませんが、お子さまたちの練習の「過程」を知っていただくことで、お子さまの頑張りを更に感じていただけたらと思います。今年度も残りわずかとなりましたが、残りの日々もお子さまたちと楽しく過ごす中で、それぞれのお子さまの成長を見守り、次の学年へと引き継いでいきたいと思います。最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。



Q4 時間がたっぷりあるとしたら、何をしたいですか？

Q5 どんな子どもでしたか？
体の弱い子どもでした。毎年夏になると体調を崩し、二か月くらいは布団の上で安静にする生活を強いられました。そのせいででしょうか、本を読むことが大好きになりました。

Q2 もし違う仕事をしていたら、やりたかったことは？
子どもの頃は、バスの運転手さんに憧れていました。時々園バスを運転するのが楽しかったです。シャナリストも憧れてました。

Q1 幼児教育を志した理由と、この仕事を通じてよかったなと思うことを教えてください。
先代(父)が築いたものを、きちんと引き継ぐべきと考えたからです。よかったですと思うことは、「人間ってなんだろ？」という原宿がいつも足元であり、そこから問いかけてくるものがあることです。

北歐ノルウェーの大西洋岸を北とする鉄道に乗りたいです。気分転換に旅行をするのも好きで、よく見ると「鉄ちゃん」の癖があります。知らない土地を車で走り、目的地も景色・建物・自然の姿を心行くまで、ゆっくり見るのが好きなんです。

また、以前ノルウェーを旅した時、ある都市でそこに暮らしている自分の家が撮られていたのを見て、今その時の思い出が抜けません。前世はそこで暮らしていたのかなと思うほどです。その街を再訪し、しばらく生活してみたいと思っています。(つきつとありません)

保護者会だより

担当やま組
佐藤か
佐藤か
佐藤か
鳥村

一年を通してくさばな幼稚園の先生方インタビューをしてきた保護者会だより。最終回は園長先生に質問をさせていただきました。

Q1 幼児教育を志した理由と、この仕事を通じてよかったなと思うことを教えてください。

先代(父)が築いたものを、きちんと引き継ぐべきと考えたからです。よかったですと思うことは、「人間ってなんだろ？」という原宿がいつも足元であり、そこから問いかけてくるものがあることです。

Q2 もし違う仕事をしていたら、やりたかったことは？
子どもの頃は、バスの運転手さんに憧れていました。時々園バスを運転するのが楽しかったです。シャナリストも憧れてました。

Q3 どんな子どもでしたか？
体の弱い子どもでした。毎年夏になると体調を崩し、二か月くらいは布団の上で安静にする生活を強いられました。そのせいででしょうか、本を読むことが大好きになりました。

Q4 時間がたっぷりあるとしたら、何をしたいですか？

Q5 どんな子どもでしたか？
体の弱い子どもでした。毎年夏になると体調を崩し、二か月くらいは布団の上で安静にする生活を強いられました。そのせいででしょうか、本を読むことが大好きになりました。

Q5 お昼の放送で流す選曲のバリエーションが豊富な園長先生。お好きな音楽について教えてください。
この世に生まれ、音楽に出会えたことにはありがたいことです。演歌もクラシックもジャズも聴きます。(今までの音楽とは、異邦人の関係ですが)

よくある質問で、「無人島に何を持っていくか」というものがあります。もし無人島に流される時「曲をひとつ持っていくっていい」と言われたら、この答えです。

ヨハン・セバスチャン・バッハの「無伴奏のバイオリンのためのソナタとパルティータ」これに尽きます。他に何もないならこれです。人類が生み出した最高の教養と感性が凝縮され、しかも単一楽器でそれを可能としている。奇跡的な音楽です。

役員一同、楽しみにしていた園長先生のインタビュー。素敵な感性を持っていらっしゃるのことがわかりました。イタリアに思い出のある園長先生。だからでしょうか、絵巻のメニューで好きなものは、パスタなんですか？